熊本YMCAの使命
熊本YMCAは、熊本バンドの精神をうけつぎ、イエス・キリストによって示された愛と奉仕のわざに励み、青少年の精神・知性・身体の調和のとれた全人的成長を願い、すべての人々がひとつとなるための働きを行います。
①共に生きる社会 ②地球環境の保全 ③生涯学習の推進
④ウエルネス活動 ⑤ボランティア活動 ⑥平和な世界

KUMAMOTO
YMCA NEWS 3
March 2010 vol.454
THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

■ホームページ
www.kumamoto-ymca.or.jp
■ブログ
kumamoto-ymca.wablog.com
■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397㈹
●編集人／神保勝己　●発行人／堤　弘雄　2010年3月1日発行(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可　定価60円(送料60円)

より自分を生かすために ～人生を変える習慣～

これまで男性中心の組織を築いてきた日本社会ですが、実際には多くの女性たちが組織を支えているという状況にあります。男女関係なく、共に寄り添ってイキイキと働くためには、各々が習慣化された行動を見直し、変えていくことが求められます。

2月11日(祝・木)、神戸YMCA会長の武田寿子さんをお招きし、「より自分を生かすために」をテーマに講演していただきました。30カ国で翻訳され、ベストセラーとなった『7つの習慣』(スティーブン・R・コヴィー著)をもとに、人生を効果的に生きるために必要なこと、自分を磨くヒントについて武田さんにお話しいただきました。

この本の中では、成長をプロセスと捉え、成長の連続というプロセスを経て、「依存状態」から「自立状態」へ、さらに「相互依存状態」へと成長していくのだと説かれています。成長過程の中で育まれるのが、歯磨きやズボンのはき方などといった「習慣」。何をすべきか、なぜすべきかという知識と、実行しようというやる気によって身に付き、この習慣をもとに私たちの人生や人格がつくられていきます。

人生を効果的に生きるために必要なのが「原則」と「価値観」です。「原則」とは、自然の法則や基礎的な真理で、万国共通、不変なもの。私たちが理解すれば大きな力を与えてくれます。一方の「価値観」は、人、物、概念、原則におく価値や優先順位のこと。育った環境や社会、自分の考え方によって影響され、一人ひとりの個性となります。

武田寿子さん
神戸YMCA会長・理事長。日本YMCA同盟ジェンダー委員長、同副理事長。

また、私たちはそれぞれの〝パラダイム〟に沿って日々、行動しています。〝パラダイム〟は、周りの世界を認識し、理解し、解釈する方法、すなわち、ものの見方や考え方のこと。有意義な変化を望むなら、まず自分のパラダイムを転換するという〝インサイドアウト〟(内から外へ)の考え方が重要です。つまり、組織の変革を望むならまず個人から。自分自身の内面を変えることです。私たち一人ひとりが、自立し、信頼ある個人かどうかを見つめ直してみてください。これから紹介する習慣をしっかり身に付けることで、人格と能力がアップします。

1つ目に〈主体性を発揮する、自己責任〉の習慣です。主体的な生き方とは、どういう状況でも価値観に基づき自分で判断する力です。何か困難にぶつかった時でも、人の責任にせず、やり方を変えて改善していく。そういう習慣を身に付けると、悪い行動パターンを断ち切って新しい行動パターンをもたらすという、流れを変える人になることができます。

2つ目に〈目的を持って始める〉こと。目的地をはっきりさせて旅立つことです。個人でも組織でも、どうありたいのか、どういう将来を望んでいるのかを計画・設計し、明確に描くことが重要です。そのために、ミッション・ステートメント(使命)を書いてみることを著者は提案しています。これから自分がどう生きたいのか、どんな人生を歩きたいのかを書き出し、時々見返して、書き直してみると、自分を発見することにもなります。

3つ目は、〈重要事項を優先する、自己管理〉の習慣です。これは、時間を大事に使う習慣のことですが、私たちがよく陥る過ちが、「緊急」と「重要」を混同させてしまうことです。「緊急」は、飛行機が遅れた、子どもが発熱したなど、緊急に対応しなければならないこと。「重要」とは、自分が価値があると思い、自分のミッションや価値観で、高い優先順位があるもの。緊急と重要を混同してしまうと、いつも緊急なことに追われてしまうので気をつけていただきたいポイントです。

4つ目は〈Win-Winを考える〉こと。人間関係には6つのパラダイムがあります。相互協力、相互得のWin-Win、地位や力、個性などに依存するWin-Lose、多くの気持ちを押し殺し相手を喜ばそうとするLose-Win、誰も得する人がいないLose-Lose、自己中心的であるWin、そして、それぞれの当事者が「ノー」と言える関係にあるWin-WinまたはNo-Deal。この6つの人間関係がいろいろな形で混じり合い、私たちは人と接しています。Win-Winの関係を実現させるには「高い勇気と思いやり」が肝心です。また、Win-Winはできるという強い信念が必要です。

5つ目は〈理解してから理解される、感情移入コミュニケーション〉の習慣です。私たちが人の話を聞く時には、「無視する」「聞くふりをする」「選択的に聞く」「注意して聞く」「感情移入して聞く」というレベルがあります。時には感情移入して、相手が本当に言いたいことを聞いてあげましょう。Win-Winの関係を築き、相乗効果を発揮しようという場合には、相手の立場に立ち、相手の理解から始めましょう。

6つ目は、〈相乗効果を発揮する、創造的な協力〉の習慣。〈Win-Winを考える〉〈理解してから理解される〉習慣を合わせると、さらに素晴らしいアイデアが生まれ、相乗効果が得られるのです。

最後の習慣は、〈刃を研ぐ〉習慣。これら6つの習慣を、日々の暮らしや仕事の中で行っていくと、歯磨きと同じように習慣となり、素晴らしい効果が生まれます。ただし、それをいつも実行していると、刃も錆びてきます。時にはリラックスして自分の時間を持つ、最新再生の習慣も忘れないようにしましょう。

わたしと聖句

使徒言行録第19章21節

「わたしはそこへ行った後、ローマも見なくてはならない」

日本バプテスト連盟
東熊本キリスト教会
保田井　建

ローマを見なければならない

使徒パウロは広く世界宣教の幻を抱いて、当時世界の文化の中心地ローマこそ十字架の福音による救いが必要だと痛感し、「ぜひともローマに行かなければならない」と言いました。彼の願いは、思いもよらない事態によって、その道が開かれるのです。

福音に反対し、パウロの働きを妨害する同胞ユダヤ人たちによってエルサレムで捕らえられますが、ローマの市民権を有していた彼は、ローマ軍の保護のもとに置かれ、さらに皇帝に上訴することを願い出て、囚人としてローマに送られます。ローマでパウロは裁判で無罪となり放免され、再び伝道を始めますが、皇帝ネロによるクリスチャンに対する迫害によって、六四年に殉教しました。パウロの働きなくしては、キリスト教の全世界伝道はあり得なかったと言えるのです。

「ローマを見なくてはならない」とのパウロの言葉に励まされ、わたしの果たすべきローマを目指して進んで行きたいと願っています。